

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和6年度第3回加東市障害者支援地域協議会
開催日時	令和7年2月27日(木) 13時30分から14時20分まで
開催場所	加東市社公民館 2階 研修室
議長の氏名 (中島 武史) 【出席及び欠席委員の氏名】 〈出席委員〉12人 中島 武史、森下 智行、土肥 博、石原 敬三、上月 秀信、大西 ひとみ、黒崎 彰啓、福島 奨平、丸山 正人、植竹 幸子、渡邊 尚樹、楳本 俊也 〈欠席委員〉0人	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 ・健康福祉部 部長 近澤 孝則 ・健康福祉部社会福祉課 課長 岸本 英典 ・健康福祉部社会福祉課 副課長 篠田 玲子 ・健康福祉部社会福祉課 主査 野津 智哉	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 議題 (1) 加東市障害者基本計画に係る進捗状況の評価について (2) 加東市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る進捗状況について 2 会議結果 (1) 加東市障害者基本計画に係る進捗状況の評価について審議しました。 (2) 加東市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る進捗状況について審議しました。 3 会議の経過 別紙「令和6年度 加東市障害者支援地域協議会(第3回)会議経過」のとおり 4 会議資料名 令和6年度加東市障害者基本計画に係る進捗状況の評価シート 令和6年度加東市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画に係る進捗状況	

別紙「令和6年度 加東市障害者支援地域協議会（第3回）会議経過」

発言者	会議の経過/発言内容
	1 開会 2 議事
委員長	それでは、議題（1）加東市障害者基本計画に係る進捗状況の評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（事務局より加東市障害者基本計画に係る進捗状況の評価について説明）
委員長	何か質問や意見はありますか。
委員	進捗状況の評価に関してはこれで良いと思うが、商工観光課の現状では0回が多く、必要に応じた情報発信を行うだけでなく、目標値として、月に何回とか、年に何回とかの表記がある方が妥当ではないかと思う。0回でも、今後の方向性の方が大事だと思うが、その点協議調整をしていただきたい。
事務局	担当課に指示をしたいと思う。
委員長	他はどうですか？
委員	A B Cの評価指標が分からない。数値目標等があり、それに対して9割以上はA、7割ならB、5割程度ならCなど、同じレベルでどうかという事が分かるものが必要だと思う。具体的に目標が決められていない事業があるのであれば決めた方がいいと思う。
委員長	事務局お願いします。
事務局	各課で目標をそれぞれ定めてもらい、それに対する評価として考えてもらうよう各課に返したいと思う。
委員長	他はどうですか？
委員	ジョブコーチの件で、基本計画に記載されているジョブコーチは、国の助成金を使ったジョブコーチになると思う。この窓口は、ハローワークとなるため、表記方法を「北播磨就業センター等」としてもらいたい。 10ページの障害者雇用率が2.89%となっているが、神戸新聞で、兵庫県の教育委員会がワースト2位になっていたが、この数字は加東市の教育委員会も含まれた数字なのか。地方公共団体法定雇用率2.7%より上回っているのに入っているのかどうか。
事務局	ジョブコーチの件に関しては、「障害者就業生活支援センター等と連携し、」という形に変えたほうが良いという事か。
委員	そうです。

事務局	分かりました。雇用率の件については、教育委員会部局も入った数字という事で人事課から聞いている。
委員	分かりました。
委員長	他はありますか。よろしいか。評価基準や目標を定め、数値化できるところはするようにという意見があったことを各担当課に伝えてください。では、第1号議案はこれで終わります。 では、(2)加東市第7期障害福祉計画および第3期障害児福祉計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(事務局より加東市第7期障害福祉計画および第3期障害児福祉計画の進捗状況について説明)
委員長	何か質問や意見はありますか。
委員	日常生活用具給付事業で、情報意思疎通支援用具が目標値を大きく下回っているという説明があったが、自分で申請できない場合のサポートはどうなっているのか。原則申請主義ではあるが、自分で申請できない場合、身近にカバーしてくれる人がいない場合、もっと極端に言えば孤立した状態で周りの地域の支援もない状態の場合、サポート体制はどうなっているのか。
事務局	申請主義が前提なので、支援者がいる状況にすべきと考えている。必要な人は、ヘルパーや相談支援専門員がついていたり、病院や施設の職員が対応すると考えている。支援できる人をつける体制を整える事より、申請できない状況を作らないという考えている。
委員	言っている意味は分かる。取り残さないという事に関して言えば、支援してもらえない人がいる所からもこぼれてしまっている場合もあると思う。その場合はどうなのか？という事です。
事務局	自分で意思表示ができない、周りからも何も助けがないという方の想定か。
委員	その通り。
事務局	アウトリーチと言って、窓口があっても行けない、発信できないという課題に対する解決としては、地域づくりが土台となり、地域の行事ごとをする中で、参加していない人を気にかける、昔ながらの横のつながりが出来てこそ、地域の中で課題が発見できると考え、市全体の事業として取り組んでいる。市だけで解決するのは難しく、地域づくりは一緒にやっていく事だと思う。
委員	分かりました。原則本人申請なので、代理申請も可能だと思うが、資格のない人でも良いのか。例えば、隣保の中で助けてあげようとしてくれる親切な人がいて、その人が代理で申請することは可能か。

事務局	そのようなケースは、今までない。実際にあったのは、家族、施設の方が代理申請するケースであり、これに関しては、代理申請の対応をしている。
委員	今後このようなケースが出てきた場合はどうするのか。社会が多様化している中で、関わってくれる人がいるという事は幸いであり、親戚や肉親でないとダメとなると、その人の意欲が低下し、助け合うという体制が根底から崩れてしまう。原則があるので、崩せない事もあるが、今後の課題として残しておいていただきたい。
事務局	軽微な申請なら代理でも良いと思うが、契約行為や重要な申し込み、申請等については、成年後見制度を使っていかなければならないと感じている。昨年度から加西市、加東市、多可町と共同して成年後見支援センターをスタートしており、そちらの方の弁護士、司法書士等も含めて支援できたらと思う。
委員	私がイメージしていたのは、軽微な申請で、その場合は、もう少し制度の緩和というか融通を持たせて対応できれば良いのかなと思う。
事務局	今後そのようなケースも出てくると思うので、対応については、課内を含め協議会でも検討していきたいと思う。
委員長	ありがとうございます。重要な話だったと思う。今回の場合、人工内耳の電池という事だったが、自分で移動できる方を想定していて、情報がうまく届いていない可能性がある場合と、届いているけど自分がいらないと判断しているという場合が考えられる。もし前者の場合であれば、もう一度周知してもらいたい。他どうでしょうか。
委員	6ページの7番のところで、障害福祉サービスの質の向上をさせるための取り組みに係る体制構築というのがある。すごく大事なところで私自身も福祉施設に勤めているので、福祉の根幹に関わるすごい大事なことだと思う。ちょっとあまりにも大きな内容なのでイメージが付きにくいですが、これは自立支援協議会の仕事部会、生活部会で内容を検討していくようなものなのか、それとも外部の方を入れて、監査ではないが評価をしながらやっていくものなのか。令和8年度に構築となっているが、どういう方向性なのかを今の段階で分かれば教えて欲しい。
事務局	今の想定としては、この障害者支援地域協議会の構成、再編成を考えていた。その中で、事業所を分野ごとに分けることを今提案させてもらっている。その部会ごとにそれぞれの共通課題であったり、その質を向上させるために工夫をしている点について情報共有等を事業所ごとにしていき、支援体制の強化を上げるような取り組みを実施できたらと考えている。
委員	分かりました。
委員長	ありがとうございます。他どうでしょうか。よろしいでしょうか。最後の委員からの意見もしっかり対応するという事で、この議案を終わります。 全体を通して何かご意見ご質問はありますか。よろしいでしょうか。では、議事は終了しましたので事務局に返します。

	3 その他 4 閉会
--	---------------

2025年4月4日

議長 中島武史